

28日 金曜

Ⅱ サムエル



11:14 朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、それをウリヤに託して送った。

11:15 彼は、その手紙に次のように書いた。「ウリヤを激戦の真っ正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が討たれて死ぬようにせよ。」

11:16 ヨアブは町を見張っていて、その町の力ある者たちがいると分かっている場所に、ウリヤを配置した。

11:17 その町の者が出て来てヨアブと戦った。兵のうちダビデの家来たちが倒れ、ヒッタイト人ウリヤも死んだ。

11:18 ヨアブは人を遣わして、戦いの一部始終をダビデに報告した。

11:19 そのとき、ヨアブは使者に命じて言った。「戦いの一部始終を王に報告し終えたとき、

11:20 もし王が憤って、おまえに、『どうして、おまえたちはそんなに町に近づいて戦ったのか。城壁の上から彼らが射かけてくるのを知らなかったのか。』

11:21 エルベシエテの子アビメレクを打ち殺したのは、だれであったか。一人の女が城壁の上からひき臼の上石を投げつけて、テベツで彼を殺したのではなかったか。どうして、そんなに城壁に近づいたのか』と言われたら、『あなたの家来、ヒッタイト人ウリヤも死にました』と言いなさい。」

11:22 使者は出かけて行き、ダビデのところに来て、ヨアブの伝言をすべて伝えた。

11:23 使者はダビデに言った。「敵は私たちより優勢で、私たちに向かって野に出て来ましたが、私たちは門の入り口まで彼らを攻め

て行きました。

11:24 城壁の上から射手たちがあなたの家来たちに矢を射かけ、王の家来たちが死に、あなたの家来、ヒッタイト人ウリヤも死にました。」

11:25 ダビデは使者に言った。「あなたはヨアブにこう言いなさい。『このことに心を痛めるな。剣はこちらの者も、あちらの者も食い尽くすものだ。あなたは町をいっそう激しく攻撃し、それを全滅させよ。』あなたは彼を力づけなさい。」

11:26 ウリヤの妻は、自分の夫ウリヤが死んだことを聞き、自分の主人のために悼み悲しんだ。

11:27 喪が明けると、ダビデは人を遣わして、彼女を自分の家に迎え入れた。彼女は彼の妻となり、彼のために息子を産んだ。しかし、ダビデが行ったことは【主】のみこころを損なった。

ダビデの王としてのすばらしさや苦難の中での信仰は、イエス様のひな型ではありませんし、また私たちクリスチャンの模範や慰めでもあります。しかしそれはあくまでもひな型であって、救い主そのものではありません。ですから聖書はダビデの罪や失敗をも隠すことなく記しているのです。それは聖なる神以外には本当の救い主とはなりえないことを表すとともに、同じように罪に弱い私たちへの教訓でもあるのです。

ダビデは自分の忠実な部下であるウリヤの妻バテシェバと罪を犯し、彼女が妊娠したことを知り、それを隠そうとしました。しかしどれもうまくいかず、とうとうウリヤを戦死させるように画策しました。

罪を悔い改めずにいると、さらに大きな罪を犯すようになることの実例です。王にとっては部下を激戦地に送ることは珍しくはないし、当然戦死

もありうることです。しかし主は見ておられ、「主のみこころをそこなった」とあるように、主はその罪に報いられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

